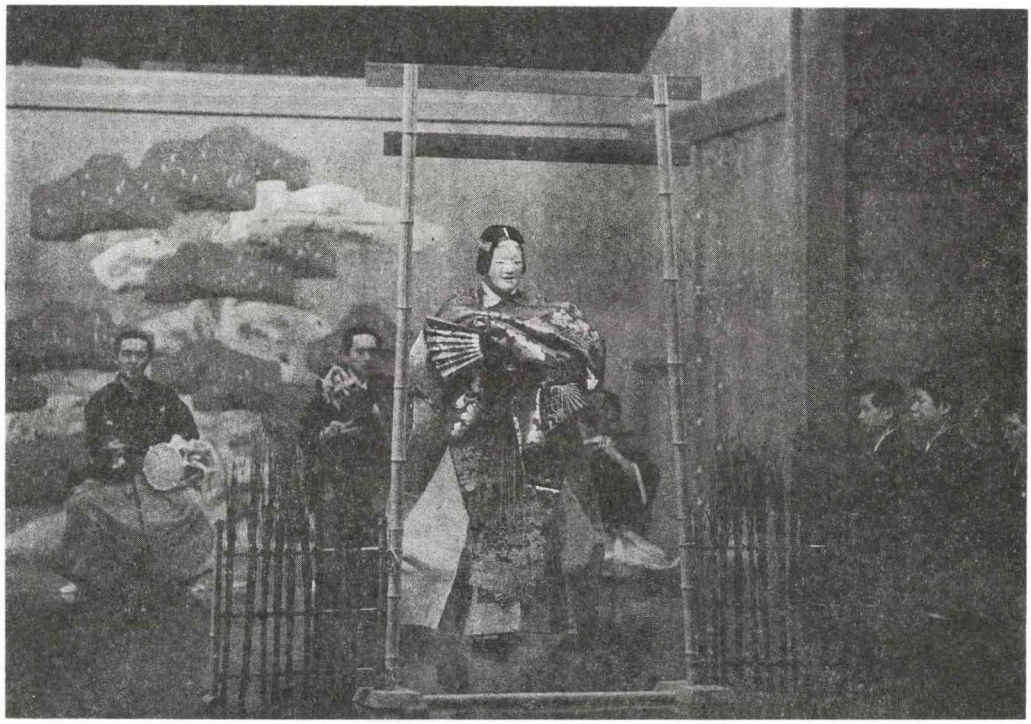
1991. 11. 15

京大広報

No. 418

京都大学広報委員会



本学能楽鑑賞会で演じられる能「野宮」の一場面　—関連記事本文188ページ—

目　　次

＜大学の動き＞
西島総長，フランス共和国訪問…… 186
＜栄誉＞
亀山正邦名誉教授，宇尾光治名誉教授が
紫綬褒章を受賞…… 186
医学部 沼　正作 教授が文化功労者に選ばれる… 186
＜部局の動き＞
—公開講座—
木質科学研究所・農学部
「人と木のかかわり—古代から未来へ—」…… 186
生態学研究センター設立記念式典とパーティー… 187
＜紹介＞
法学部情報システム室…… 187
学術講演会の開催…… 188
能楽鑑賞会の開催…… 188
日　誌…… 189
訃　報…… 189
＜コラム＞
KYOTO versus TOKYO
基礎物理学研究所教授　牧　二　郎…… 190
写真集企画委員会からのお願い…… 190

＜大学の動き＞

西島総長，フランス共和国訪問

西島安則総長は，10月18日から24日までフランス共和国へ出張し，パリにあるユネスコ本部で開催された第26回ユネスコ総会に出席した。

同総会は10月15日から11月７日までの予定で開催されており，西島総長は，第26回ユネスコ総会日本政府代表顧問として，19日から23日の間の本会議，事業第Ｖ委員会（人文・社会），法規委員会，行財政委員会に出席するとともに，マイヨール事務局長をはじめユネスコ本部関係者並びに各国代表団と懇談した。

日本ユネスコ国内委員会会長天城　勲氏とユネスコ本部の前にて

＜栄誉＞

亀山正邦名誉教授，宇尾光治名誉教授が紫綬褒章を受賞

亀山正邦名誉教授（元医学部教授，神経内科学）及び宇尾光治名誉教授（元ヘリオトロン核融合研究センター教授，プラズマ理工学）に，わが国学術の向上発展のため顕著な功績を挙げたことにより，平成３年11月３日紫綬褒章が授与された。

医学部　沼　正作教授が文化功労者に選ばれる

医学部　沼　正作教授は，平成３年度文化功労者に選ばれ，11月５日，国立教育会館で顕彰式が行われた。

同教授は，これまでに Heinrich Wieland 賞，朝日賞，日本学士院賞，Otto Warburg メダル，F.O. Schmitt 神経科学賞等を受けており，またバイエルン科学アカデミー，アメリカ芸術科学アカデミー，王立協会，ドイツ自然科学者アカデミー Leopoldina，米国科学アカデミー等の会員である。なお，同教授の略歴，業績等については，米国科学アカデミー外国人会員に選ばれたことを報じた記事（「京大広報」№412，1991.6.15）を参照されたい。

（医学部）

＜部局の動き＞

―公開講座―

木質科学研究所・農学部「人と木のかかわり ―古代から未来へ―」

木質科学研究所と農学部林産工学教室では，９月21日と９月28日の両日午前10時から午後４時まで，農学部大講義室において公開講座「人と木のかかわり―古代から未来へ―」を開催した。

昭和57年以来10回を迎えた本講座では，一般市民を対象に，樹から木へ，木から材料へ，材料から木質環境へと至る木の科学の最新の研究成果を盛り込みながら，人と木のかかわりをわかりやすく解説した。受講者は年々増加して140名に達した。

テーマと担当者は以下のとおりであった。

第１日（９月21日）

分子の世界から木材を見る
―分子シミュレーション―　　田中　文男
木を活かす―樹皮成分の利用―　　河本　晴雄
木を長持ちさせる―木材の保存―　　高橋　旨象

シロアリを探知する
—木材のAE（音響放射）モニタリング—
野口　昌巳
木が人を守る
—森林の環境浄化作用—　片山　幸士
第2日（9月28日）
木を曲げる—木材の物理—　師岡　敏朗
木を感じる—木質感の科学—　仲村　匡司
実習・見学・展示
木質科学研究所・林産工学教室教官
樹種を見分ける
—藤ノ木古墳，正倉院，桂離宮の調査から—
林　昭三
（木質科学研究所，農学部）

生態学研究センター設立記念式典とパーティー

本年4月12日に設立された生態学研究センターの設立記念式典とパーティーが，10月16日（水）午後3時から都ホテルにおいて開催された。

記念式典では，川那部浩哉生態学研究センター長と西島安則総長の挨拶，文部省の高　為重学術国際局研究機関課長，丸山和博理学部長，近藤次郎日本学術会議会長，樋口敬二学術審議会委員の祝辞に続いて，大島康行早稲田大学教授の記念講演が行われた。

また，パーティーにおいては，川那部浩哉生態学研究センター長挨拶，小野勇一日本学術会議会員，稲葉　稔滋賀県知事の祝辞に続いて，宝月欣二前日本生態学会長の発声による乾杯で部局長，関係教官，事務（部）長，など約100名が設立を祝い，午後6時頃閉会した。

（生態学研究センター）

＜紹介＞

法学部情報システム室

法学部では，かねてより積極的に情報機器を導入することによって，高度情報化社会の進展に伴う法学及び政治学の研究・教育の充実を図ってきた。平成2年早々，情報処理教育センター（以下「センター」という）から教育用計算機システムの端末装置提供の申し出を受けて以来，学部情報システム検討委員会を設置して，その受入れ体勢を整えるとともに，学部情報システムの全体構想について種々検討を重ねてきた。その結果，本年4月，法経北館2階に情報システム室を開設する運びとなった。

情報システム室には，センターから提供された教育用計算機システムの端末装置のほか，法学部で独自に導入した情報機器を配置している。

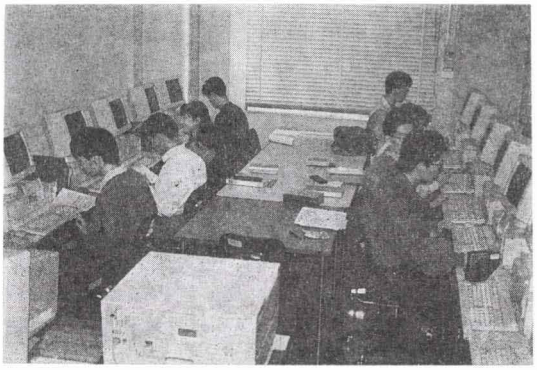
まず，センターから提供されている装置としては，パソコン型ワークステーション10台（日立製B32GX），管理サーバ，印刷サーバ，ホストサーバ各1台，レーザビームプリンタ，ページプリンタ各1台その他の周辺機器があり，これらの装置は，1つのLAN（ローカルエリアネットワーク）を構成するとともに，KUINS基幹ループLANと専用電話回線を経由してセンターのホスト計算機に繋がっている。各ワークステーションには，ワープロ，表計算，データベース，エディタ，BASIC言語等のポピュラーなソフトウェアが実装され，パソコンとして常時利用できるほか，TSSによってセンターのホスト計算機上の日英／英日翻訳支援システム，統計処理システム，各種のプログラム言語等の豊富なソフトウェアも利用できるようになっている。

情報システム室は，学部及び研究科の授業で占有する時間帯を除き，教官の責任で学生に随時利用させることになっている。目下のところ，情報システム室で授業を行っているのは，学部の演習と研究科の講義の各1科目であり，いずれも担当教官がセンターのホスト計算機上に構築した法令・判例・文献データベースのTSSでの利用が中心である。

次に，法学部で独自に導入した情報機器として

は，日本語用 OCR（光学的文字読取装置）一式（富士通製パソコン，21インチ高解像度カラーディスプレイ，イメージスキャナ，OCR 本体）と，レーザビームプリンタを接続した高機能パソコン（NEC 製 PC—H98）がある。日本語用 OCR は，コピー機の要領で文書（判例集等）を画像として取り込んだうえ，個々の文字を認識してテキストデータとして出力するもので，操作に慣れれば，1頁分（53字×19行）をわずか1分程度で処理できるという便利なものである。この装置は，既に法令・判例・文献等のデータベースの作成や，司法統計や選挙資料等のデータの入力に威力を発揮している。また，高機能パソコンは，論文等の清書印刷に利用できるほか，ハードディスク上のデータベースで，最新の法令・判例の検索ができるようになっている。

（法学部）



学術講演会の開催

平成3年度秋季学術講演会を下記のとおり開催します。本学教職員・学生の来聴を歓迎します。

記

日　時　平成3年12月6日（金）　午後3時　　**会　場**　法経第二教室

講　師　大　野　　豊（本学名誉教授）

演　題　ソフトウェアの課題　—さらにパーソナル化とオープン化に向けて—

講師略歴

1946年東京帝国大学第一工学部機械工学科卒業。1946～1972年運輸省鉄道技術研究所勤務。1972年京都大学工学部教授に就任。1978年～1988年京都大学情報処理教育センター長を兼任。1988年退官。現在，立命館大学理工学部教授。（財）京都高度技術研究所所長。工学博士。

同氏は，情報工学の分野において輝かしい研究業績を挙げているが，特に大規模オンライン実時間システム設計論に関する基礎的研究を通して，今日の鉄道の座席予約システムのモデル化とその実現に中心的役割を果し，また，ソフトウェア仕様化手法，ソフトウェア自動合成論などの専門分野の研究においても，先駆者としての功績がある。

同氏はまた，日本ソフトウェア科学会理事長，情報処理学会々長，コンピュータ教育開発センター評議員会議長等を歴任し，我国の情報工学の分野全体にわたって活躍，指導的な役割を果している。1971年には学問的，社会的貢献により紫綬褒章を授与された。

能楽鑑賞会の開催

平成3年度能楽鑑賞会を下記のとおり開催します。本学教職員・学生の来場を歓迎します。

記

日　時　平成3年12月10日（火）　午後6時半開演

会　場　京都観世会館　京都市左京区岡崎円勝寺町44（東山仁王門を東へ約300メートル）

演　目　狂言　「寝音曲」　茂山千之丞　　茂山あきら　　他

　　能　　「野宮」　片山九郎右衛門　　植田隆之亮　　河村　大　　他

入場無料

備考：定員は550名先着順とします。

（学生部）

日　　誌

（1991年10月1日～10月31日）

10月1日　評議会
2日～7日
総長，ケベック州における高等教育・研究機関の視察及び学術交流に関する意見交換のためカナダ国を訪問
7日　京都大学春秋講義　月曜講義　第1日（以後，10月14日，21日，28日，11月11日）
9日　京都大学春秋講義　水曜講義　第1日（以後，10月16日，23日，30日，11月6日）
14日　環境保全委員会
〃　カナダ国トロント大学 M.A. Chandler 文理学部（Arts and Science）学部長来学，総長及び関係教官と懇談
〃　ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学 Werner Leidl 副学長夫妻来学，総長と懇談
17日　スイス連邦 Heinrich Ursprung 科学庁長官他4名来学，総長と懇談
18日～24日
総長，ユネスコ総会に出席のためフランス共和国を訪問
19日　京都大学市民講座「つち」第1日（以後，10月26日，11月2日）
22日～25日
平成3年度京都大学中堅職員研修（第7回）
23日　国際交流委員会
〃　国際交流会館委員会
24日　ドイツ連邦共和国 Anke Brunn ノルトライン・ウェストファーレン州高等教育・科学技術大臣他4名来学，総長と懇談
25日　放射性同位元素等管理委員会
29日　評議会
〃　大学院審議会
〃　創立百周年記念施設建設委員会

訃　報

長谷川　博一　名誉教授

本学名誉教授 長谷川博一（ひろいち）先生は，10月30日逝去された。享年65。

先生は，昭和23年京都大学理学部物理学科を卒業後，大阪市立大学助手，学習院大学講師，同助教授，同教授を経て，昭和41年4月本学理学部教授に就任，平成元年3月停年により退官され，京都大学名誉教授の称号を授与された。この間，京都大学評議員，理学部長等を歴任，京都大学の管理運営に貢献された。本学退官後，平成元年4月より大阪産業大学教授，同2年4月からは，同教養部長として私学教育の発展に尽力された。

学外においても，宇宙科学研究所及び極地研究所の併任教授，日本物理学会理事・監事，京都理学研究協会理事・評議員として学会活動に携わると共に，文部省学術審議会専門委員，国立天文台及び極地研究所評議員，日本学術会議物理学研究連絡委員会委員等の各種委員を歴任し，わが国の理学研究の発展に大きな貢献をされた。

先生の研究分野は，物理学の中の宇宙線物理学及び関連する宇宙物理学であり，特に代表的な研究課題は，宇宙線生成核種の高精度計測に基づいた宇宙線強度の永年変化の研究，惑星間空間における固体微粒子の運動学的研究，及び星間空間での固体の凝縮過程とその後の微視的進化過程の理論的研究を挙げることができる。先生は，これらの研究で優れた業績を多く残されただけでなく，赤外線天文学及び宇宙固体科学といった宇宙物理学の新しい実験観測研究の分野の育成発展にも多大の努力をはらってこられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（理学部）